

第5回 静岡市立の高等学校の在り方検討委員会

日時： 令和8年1月21日(水) 14:00~16:00
場所： 静岡市役所清水庁舎 第1会議室
参加者： 検討委員会の委員 + オブザーバー
事務局： 教育長、教育局長、教育局次長、教育総務課長、
教育総務課参事、高校担当
プロジェクトチーム

次 第

1 開会	事務局
2 会議の公開・傍聴の確認	委員長
3 【情報共有】「これまでの検討状況について」 (1)本検討委員会の振り返り(第1回~第4回) (2)県立高等学校の在り方に係る地域協議会	事務局 県教委
4 【報告】「静岡市立の高等学校の在り方に関するアンケート」の実施結果 報告について	事務局
5 【協議】「静岡市立の高等学校の在り方に関する提案書(最終案)」の検 討及び決定について (1)提案書の説明 (2)協議	事務局 委員長
6 【総括】「静岡市の教育の未来に向けて」	委員
7 【挨拶】「検討委員会の終了にあたって」	教育長
8 【事務連絡】 閉会	事務局

第1回検討委員会（令和7年4月28日）

目的・背景の共有、及び、在り方検討の視点、検討プロセス等についての協議

【委員からの意見】

- 市立の高校の成り立ちを踏まえ、県立でまかなえない人数を埋めるだけなら県立だけでよい
- 市と県が連携しつつ、静岡市独自の教育の枠組みと方向性を明確にすべきである
- 市がどのようなビジョンと覚悟をもっているかを明確にするべきである
- 県で採用した職員が市立の高校に行く、今のこのやりかたでは、市の独自性は本気では目指せない

第2回検討委員会（令和7年6月18日）

(1)静岡市が高校を持つ意義

市が求める人材(資質・能力・知識)の育成が、今後の市が高校を持つ意義となる(質的な供給)

(2)「新しい学校の姿」の市のビジョン(案)

静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人を育成する場

(3)運営体制の改善策

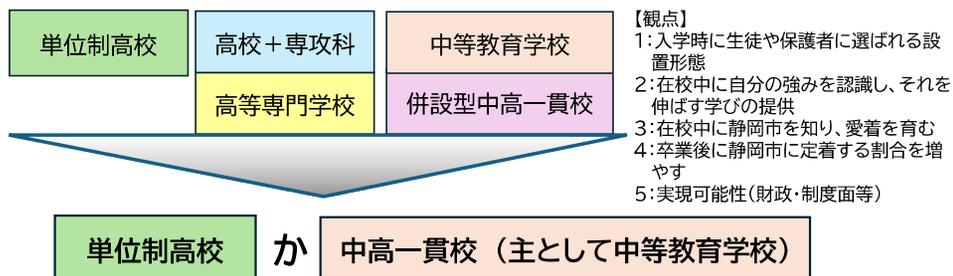
高校教職員の県依存体制の改善案(市の中学教員を交流派遣、校長等を市が採用等)

【委員からの意見】

- 静岡市と県教育委員会の方向性をすり合わせ、教育政策の整合性を確保すべきである
- 設置にかかるコストと運営負担を十分に精査し、制度(交付税等)の活用を模索すべきである
- 新しい教育体制(教員の配置や外部人材活用等)の構築を視野に入れ検討を行うべきである

第3回検討委員会（令和7年9月9日）

【設置形態についての方向性】 類型からの絞り込み



その他 学びの内容・実現等についての意見として、

- ①教育の「余白」の重要性
- ②外部人材の積極的活用と教員資質向上策の構築
- ③地域との連携の重要性 について協議された

第4回検討委員会（令和7年11月12日）

(1) 規模について

現時点における事務局の想定である、現在の1学年あたりの学級数である14学級を将来は8~10学級程度を上限とすること、及び具体的な学級数については、今後の静岡県教育委員会との調整において決定することについて了承を得た。

(2)「新しい静岡市立の学校」での中核となる学びについて

事務局は、ビジョン案である「静岡市に新たな価値を創出する卓越した強みと行動力を備えた人の育成」に資する中核分野として、「国際・グローバル+情報・理数」を提示し、その内容について委員の理解と賛同を得るとともに、下記の意見をいただいた。

<教育内容の斬新さ>

国際や情報理数といった分野は重要だが、それ自体を「看板」とするには目新しさが足りないため、内部でプログラム化し看板は別にしておくか。

<個別最適な学びと協働性>

個別最適な学びは現代に必要な力を育む上で有効である一方、生徒が難しい分野を避けがちになるため、学校側がカリキュラムをしっかりと構造化する必要がある。また、個別学習が進むと「協働性が弱くなる」という問題があるため、集団で学ぶ機会等を意図的に作る必要がある。

<ハード面と実績>

教育内容(ソフト面)に加え、生徒を集める「売り」となる象徴的な施設(ハード面)が必要である。また、保護者や生徒は進路の実績を見ているため、保護者にとって分かりやすい進学実績の指標を示すことも重要ではないか。

(3) 意見集約(提案書)について

これまでの審議を踏まえ事務局が作成した「提案書(案)」について委員が確認を行い、表現の修正や内容の補完について、委員から意見をいただいた。

(4) アンケート調査の実施について

設置形態が2つ(中高一貫校と全日制単位制高等学校)に絞られたことを踏まえ、将来の保護者がこれらの設置形態をどのように捉えるかを確認するため、事務局はウェブアンケート(案)を提示し、その内容等について、委員から意見をいただいた。

静岡市立の高校「新しい学校の姿」に関する アンケート結果について【報告】

期間 : 2025年12月1日(月)~12月14日(日)
対象 : 市立小中の保護者(小1~中2)
方式 : Webアンケート (非記名、選択式、自由記述は任意)
目的 : 検討委員会で提案された設置形態(方向性)に対して、近い将来、お子様が高校生(中学生)になる保護者のみなさまの意見を伺いたいと考え実施(設置形態について検討委員会の方向性と将来世代の生徒保護者の考えに乖離がないか確認するため)

回答数 : **n=8,135** 【児童・生徒数(回答者の子供の人数合計)ベースでは、11,054 (29.7%)】

🎯 肯定的な回答数・割合 (十分候補になる、そのような選択肢があってもよい)



設置形態について検討委員会の方向性と将来世代の生徒保護者の考えに乖離ない

【アンケートの趣旨】

静岡市では、市立の2高校(静岡市立高校と清水桜が丘高校)において、最近の志願状況および将来の15歳人口の減少推計を踏まえ、静岡市の地域特性を生かした特色ある「静岡市立の学校の在り方」を検討しています。具体的には、本年度、有識者による「静岡市立の高等学校の在り方検討委員会」を立ち上げ、様々な協議を行っているところです。今般、検討委員会から「新しい学校」の設置形態として、中高一貫校(主に完全な6年一貫教育の中等教育学校、副案として高校からの入学を認める併設型の中高一貫校)か、単位制高校(全日制)の設置が望ましいのではないかという方向性が出されました。今後は、静岡市としても検討委員会の提案を踏まえ、検討を深めていく予定です。

本アンケートは、現時点において検討委員会で提案された設置形態(方向性)に対して、近い将来、お子様が高校生(中学生)になる保護者のみなさまの意見を伺いたいと考え実施するものです。ご協力をお願いします。

【回答上の注意点】

- ・「新しい学校の姿」は、現在の静岡市立高校、清水桜が丘高校のどちらかの高校を特定するものではありません。
- ・お子様が複数いる場合も、対象学年を複数個所選択することにより、1度の入力でご回答いただけます。なお、保護者1名につき1回答としてください。
- ・本アンケートはお子様の進路希望の調査ではありません。お子様が進学を考える該当学年になる(であった)ことを想定いただき、その際の進学先の選択肢の1つになり得るかをご回答いただくものです。
- ・検討委員会の資料や議事録は、市HPに掲載されています。詳細を知りたい場合は、こちらを参照ください。 <参照先>

Q1. お子様の学年を教えてください **必須** (兄弟等がいる場合、複数個所を選択)

小1 小2 小3 小4 小5 小6 中1 中2

【学年別回答状況】

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
回答数	1,172	1,281	1,248	1,480	1,495	1,460	1,494	1,424
回答数/生徒数	(28%)	(29%)	(27%)	(31%)	(31%)	(29%)	(33%)	(30%)

Q2.お子様が通われている小学校 **必須**Q3.お子様が通われている中学校 **必須**

【葵区】

中学校 グループ名	A 対象 生徒数	B 回答数	C 回答数 ×子供	D 回答率 C/A	中等教育学校		併設型一貫校		単位制	
					肯定的 (割合)	肯定的 (割合)	肯定的 (割合)	肯定的 (割合)		
籠上中_G	1,069	250	361	33.8%	226	90%	234	94%	225	90%
末広中_G	1,232	266	371	30.1%	241	91%	244	92%	233	88%
安倍川中_G	651	125	165	25.3%	116	93%	117	94%	110	88%
美和中_G	516	106	156	30.2%	93	88%	95	90%	97	92%
城内中_G	1,289	363	485	37.6%	327	90%	323	89%	313	86%
安東中_G	2,218	523	697	31.4%	483	92%	485	93%	454	87%
東中_G	1,848	311	432	23.4%	289	93%	293	94%	259	83%
西奈中_G	849	283	373	43.9%	253	89%	262	93%	250	88%
観山中_G	1,129	319	423	37.5%	289	91%	293	92%	284	89%
亀爪中_G	961	145	190	19.8%	133	92%	137	94%	125	86%
賤機中_G	829	198	272	32.8%	185	93%	186	94%	181	91%
大河内小中_G	19	9	15	78.9%	8	89%	8	89%	9	100%
梅ヶ島小中_G	10	2	4	40.0%	2	100%	2	100%	2	100%
玉川小中_G	16	5	7	43.8%	4	80%	3	60%	4	80%
井川小中_G	4	1	2	50.0%	1	100%	1	100%	1	100%
服織中_G	1,488	323	435	29.2%	294	91%	301	93%	295	91%
薬科中_G	107	16	24	22.4%	15	94%	14	88%	14	88%
大川小中_G	11	2	2	18.2%	2	100%	2	100%	2	100%
葵区 計	14,246	3,247	4,414	31.0%	2,961	91%	3,000	92%	2,858	88%

【清水区】

グループ名	A 対象 生徒数	B 回答数	C 回答数 ×子供	D 回答率 C/A	中等教育学校		併設型一貫校		単位制	
					肯定的 (割合)	肯定的 (割合)	肯定的 (割合)	肯定的 (割合)		
清水第一中_G	729	147	210	28.8%	130	88%	132	90%	131	89%
清水第二中_G	1,602	215	290	18.1%	186	87%	190	88%	176	82%
清水第三中_G	228	81	102	44.7%	72	89%	72	89%	77	95%
清水第四中_G	839	249	323	38.5%	223	90%	227	91%	221	89%
清水第五中_G	394	108	149	37.8%	101	94%	98	91%	99	92%
清水第六中_G	1,130	200	250	22.1%	188	94%	190	95%	177	89%
清水第七中_G	1,929	468	660	34.2%	411	88%	423	90%	393	84%
清水第八中_G	838	180	245	29.2%	159	88%	165	92%	155	86%
清水飯田中_G	1,200	194	272	22.7%	173	89%	182	94%	170	88%
清水袖師中_G	496	104	138	27.8%	92	88%	95	91%	89	86%
清水庵原中_G	451	107	155	34.4%	91	85%	96	90%	95	89%
清水興津中_G	681	179	251	36.9%	157	88%	160	89%	168	94%
清水小島中_G	228	43	60	26.3%	36	84%	40	93%	40	93%
両河内小中_G	72	27	38	52.8%	23	85%	25	93%	24	89%
蒲原中_G	470	120	153	32.6%	104	87%	107	89%	106	88%
由比中_G	295	80	109	36.9%	78	98%	77	96%	75	94%
駿河区 計	11,582	2,502	3,405	29.4%	2,224	89%	2,279	91%	2,196	88%
合計	37,164	8,135	11,054	29.7%	7,337	90%	7,487	92%	7,157	88%

【駿河区】

グループ名	A 対象 生徒数	B 回答数	C 回答数 ×子供	D 回答率 C/A	中等教育学校		併設型一貫校		単位制	
					肯定的 (割合)	肯定的 (割合)	肯定的 (割合)	肯定的 (割合)		
大里中_G	1,682	383	529	31.5%	352	92%	360	94%	338	88%
南中_G	1,271	203	265	20.8%	181	89%	185	91%	172	85%
中島中_G	485	132	166	34.2%	121	92%	122	92%	115	87%
豊田中_G	1,126	247	343	30.5%	219	89%	221	89%	207	84%
東豊田中_G	1,804	478	654	36.3%	434	91%	443	93%	431	90%
高松中_G	1,522	318	436	28.6%	285	90%	298	94%	287	90%
長田西中_G	1,302	232	307	23.6%	210	91%	218	94%	206	89%
長田南中_G	1,626	315	432	26.6%	283	90%	293	93%	278	88%
城山中_G	518	78	103	19.9%	67	86%	68	87%	69	88%
駿河区 計	11,336	2,386	3,235	28.5%	2,152	90%	2,208	93%	2,103	88%

回答者の地域に著しい偏りはない。
概ね どの地域の回答割合 = 約30%

Q4. 「中等教育学校」の設置について 必須

検討委員会では、「将来の静岡市立の新しい学校」として、中高一貫校、特に中学と高校を合わせた6年制の「中等教育学校」(イメージ図参照)が提案されました。お子様の進路先として、候補になり得るか等の意見について、次の選択肢から1つだけ選んでください。(中学生の保護者におかれましては、お子様が小6だったと仮定してお答えください)

選択肢	回答数	割合
1 十分候補になり得る。	2,471	30%
2 通常の公立中学校への進学が基本であるが、このような選択肢があってもよい。	4,866	60%
3 通常の公立の中学校、または私立中学校しか考えられない。	685	8%
4 その他	113	1%



【「その他」を選択した場合の自由記述 の主たる内容】

【肯定的(条件付き肯定)な意見】

- ◎ 選択肢の多様化への賛同(いろんなスタイルが良い、選択肢が増える、人口減対策)
- ◎ 通学手段・立地条件(スクールバス次第、自宅から近い、通学が負担にならないなら)
- 教育内容・進学実績の質(進学校としての実力、希望のコース、大学進学目的、魅力ある学校なら)
- 柔軟性(転編入・不登校対応、途中で編入可能か、オンライン学習、海外からの編入)
- 特別支援・インクルーシブ対応(支援級があるなら、情緒級の設置、発達障害への対応、手厚い支援があれば)

【中立的な意見・判断不可】

- ◎ 情報不足・イメージ困難(よくわからない、想像できない、判断材料がない)
- ◎ 支援級在籍等のため対象外感(支援級のため普通の高校は考えていない、対象外だと思う)
- 対象外(年齢・私立志向)(もう中学生、私立中のみ検討、既存校を検討、関係ない)
- ◆ 内容・詳細次第で保留(教員による、特色による、進学先による)
- * 制度の複雑さ・不明点(学区はどうなるか、仕組みが不明、レバルが不明)

【懸念されること】

- ◎ 早期決定への不安(12歳の壁、小学生での判断は早い、親のエゴ、成長による変化、適性判断への疑問)
- 環境の固定化・逃げ場のなさ(6年間同じ環境、人間関係の偏り、不登校時のリスク、途中で変えられない)
- ◆ 学力・競争心の低下(中だるみ、競争がない、学力が落ちる、受験は必要)
- * 選択肢の縮小・地域格差(公立進学の幅が狭くなる、清水区の高校減少、地元の高校を残して、地域から出る不安)

【否定的な意見】

- ◎ 制度への基本的反対(意義を感じない、公立に一貫教育は不要、期待していない)
- ◆ 不登校・環境不適合(不登校には苦痛、公立には行かせたくない)
- * 既存校(市立・桜が丘) 存続希望(今のままで良い、市高を残して、現状の雰囲気が好き)

【批判的な意見】

- ◆ 教員の質・指導力への不信(教師の指導力不足、教員をどう育てるのか、現状の公立への不満)
- * 多様性の欠如(支援級等の排除、支援学校が選択肢にない、普通級前提の議論、弱者切り捨て)
- * デメリット・詳細の隠蔽(デメリットを書くべき、資料が乏しい、誘導的だ、急すぎる)

意見の件数が多い順に
◎ > ○ > ◆ > *

「中等教育学校」ってどんな学校？

～6年間同じ仲間・同じ方針で学ぶ学校～

【対象】
中学入学段階のお子さま



※県内に前例はありません

特徴

- ① 中高6年間で1つの学校で学びます(高校からの入学は原則ありません)
- ② 受験は中学入学時の1回だけ(高校入試はありません)
- ③ 中1から高3まで、一貫した教育プログラムでじっくり学力を伸ばします
- ④ 多様な個性や興味を伸ばす独自のカリキュラムが展開されます

メリット

- ① 6年間をかけて計画的に学べます
- ② 高校受験の負担がなく、課外活動や探究活動に集中できます
- ③ 異年齢の交流を通じて社会性が育まれます

Q5.【任意】中等教育学校に関してご意見がありましたら、簡潔に記入してください。

【回答数=1337件 自由記述を大まかに分類し、主な意見を抽出 枠内:上から意見の多い順】

【肯定的な意見】

- ◎選択肢の拡大・多様性(選択肢が増える、新しい学校、公立の選択肢、多様な進路)
- ◎高校受験の負担軽減・消失(受験がない、ストレスフリー、負担減、塾代不要、精神的安定、のびのび過ごせる)
- ◎6年間の一貫教育・カリキュラム(一貫教育、計画的、先取り学習、継続性、じっくり学ぶ、大学受験への準備)
- 不登校・支援ニーズへの対応(不登校、支援級、環境変化がない、個性の尊重)
- ◆安定した環境・人間関係(同じ仲間、落ち着いた環境、深い絆、先生との関係、安心感)
- ◆課外活動・部活・探究への集中(部活動、探究活動、スポーツ、習い事、好きなこと、打ち込める)
- *異年齢交流・社会性(異年齢、高校生との交流、社会性、憧れ)

【肯定的(条件付き)な意見】

- ◎特色あるカリキュラム・専門性(専門性、英語、理数、職業教育、私立との差別化、国際バカロレア)
- ◎転校・進路変更の柔軟性(出口戦略、途中転出、高校受験可能か、コース変更、逃げ道、編入、合わなかった場合)
- ◎高い学力・進学実績の担保(進学校、レベル維持、授業の質、大学進学実績、難関大、補習)
- 費用面の配慮・給食(学費、給食、公立価格、私立との差、経済的負担)
- 通学・立地条件・バス(スクールバス、自転車通学、立地、距離、通いやすさ)
- ◆いじめ・トラブルへの対応策(いじめ対応、クラス替え、逃げ場、カウンセリング、人間関係のケア)
- *入学者選抜の公平性(入試方法、選抜基準、過度な競争回避、誰でも入れるか)

【中立的な意見 ・判断不可】

- 既存校(私立・公立一貫校)との比較(既存の一貫校との違い)
- ◆詳細情報の不足・説明要望(具体的内容、不明点多い、判断材料不足、説明会)
- ◆情報不足で判断不能(わからない、イメージできない、メリットデメリット不明)
- *制度・運営への質問(教員の異動、部活動の扱い、義務教育との兼ね合い)
- *入試・選抜制度への関心(受験の有無、偏差値、定員、倍率)
- *自分(子供)には無関係(年齢対象外、興味なし)

【懸念されること】

- ◎人間関係の固定化・逃げ場がない(狭い世界、メンバー固定、いじめ、逃げ場がない、人間関係リセット不可)
- ◎中だるみ・競争心の低下(中だるみ、緊張感欠如、学力低下、競争がない、モチベーション維持)
- ◎学力格差・落ちこぼれ(ついていけない、学力差、格差拡大、補習体制、置いていかれる)
- 早期の進路決定(12歳の壁、小6で決めるのは早い、将来が変わる、親の意向、未熟、判断できない)
- 小学生への受験負担・早期競争(塾通い、受験戦争の低年齢化、親の負担増、遊ぶ時間が減る)
- 高校からの入学枠・他校への影響(高校から入れない、枠が減る、地元中の空洞化、選択肢が減る)
- 部活動の地域移行との兼ね合い(部活廃止、地域移行、中高での部活の接続、活動場所)
- ◆通学負担・遠距離(遠い、通学時間、災害時の対応、親の送迎、自転車通学の危険)
- ◆経済格差・塾費用(貧困家庭は無理、塾代、経済格差、私立と変わらない)

【否定的な意見】

- 6年間固定の弊害(環境)(変化がない、新しい出会いがない、社会性が育たない、井の中の蛙)
- 既存制度(3-3制)の支持(高校受験は必要、リセットの機会、成長の区切り、今のままでいい)
- *失敗例への言及(定員割れ、他県の失敗例、需要がない)
- *コスト・税金の無駄(税金の無駄、コストが悪い、他に使うべき)
- *早期受験(小学生)への反対(小学生に受験勉強させたくない、かわいそう、早すぎる)

【批判的な意見】

- ◆教員の質・指導力への不信(教師のレベル低い、異動がある公立に無理、サラリーマン教師、指導力不足)
- ◆現状の公立教育への不満(既存校の改善が先、宿題・校則への不満、内申点制度批判)
- ◆制度設計・運営能力への疑問(市に運営能力あるか、見通しが甘い、箱物行政、現場を知らない)

Q6. 「併設型中高一貫校」の設置について**必須**

検討委員会では、「将来の静岡市立の新しい学校」として、高校に中学校が併設する「併設型中高一貫校」(イメージ図参照)が中高一貫校の副案として提案されました。お子様の進路先として、候補になり得るか等の意見について、次の選択肢から1つだけ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 中学校への入学または高校への入学に際し、十分候補になり得る。	2,891	36%
2 通常の公立中学校への進学、または今ある高校(普通科や専門学科(工業・農業・商業等))への進学を基本に考えているが、このような選択肢があってもよい。	4,596	56%
3 通常の公立の中学校や私立中学校、または今ある高校(普通科や専門学科(工業・農業・商業))だけしか考えられない。	540	7%
4 その他	108	1%



【「その他」を選択した場合の自由記述 の主たる内容】

【肯定的(条件付き肯定)な意見】

- ◎特別支援・インクルーシブ要件(情緒級の設置、手厚い支援、支援級も対象か)
- ◎子供の意思・適性重視(本人が選択するなら、子供の学力と希望、無理強いほしくない)
- ◎特色ある教育(芸術・職業、音楽関係、なりたたい職業に近い、興味を探求)
- ◎進学実績・カリキュラムの質(難関国公立、進学校であれば、レベルがわからない)
- 柔軟性・転出入の可否(途中で合わない場合、オンライン学習、自由度が保たれているなら)
- ◆経済的メリット・選択肢(資金面で助かる、私学へ通えない家庭、選択肢が増える)
- *設備・環境・費用(学費、設備、メリットがあれば)
- *既存校(市高等)への愛着(市高を残してほしい)

【中立的な意見 ・判断不可】

- ◎情報不足・イメージ困難(よくわからない、判断材料がない、想像できかねる)
- ◎対象外(年齢・私立志向)(もう中学生、私立しか考えない、通信制検討)
- ◎詳細・条件次第で保留(内部と外部の割合による、教育課程による)
- 制度の複雑さ・不明点(義務教育との違い不明、仕組みが分からない)
- ◆まだ考えられない(何も考えていない、想像できない)

【懸念されること】

- ◎早期決定・固定化リスク(小学生で判断は早い、進路変更の難しさ、逃げ場)
- ◎不登校・適応への不安(不登校のため未定、集団行動への抵抗)
- 学習進度・カリキュラムの段差(先取り学習に限度、6年プログラムがブレる、途中参加)
- ◆内部生と外部生の人間関係・溝(途中から入りにくい、人間関係が出来上がっている、ギャップ、疎外感)
- *通学負担・立地(距離がある、通学が危ない)
- *既存校の現状・地域(既存校の現状を見ると疑問、地元中の生徒減)

【否定的な意見】

- ◎高校入学(外部進学)への忌避(高校からは入れない、途中からは行きたくない、選択肢が狭まる)
- 支援級在籍等による諦め(支援級なので無理、普通の学校は考えられない)
- 公立中高一貫の不要論(私立で十分、わざわざ市立でやる必要ない、6年制に否定的)
- *転勤・家庭事情(転勤が多いので選択しにくい)

【批判的な意見】

- ◆デメリットの隠蔽・誘導(デメリットを書くべき、資料が乏しい、結論ありき)
- ◆支援・多様性の欠如への憤り(支援学校が選択肢にない、普通級しか見ていない)
- ◆拙速な議論・不信感(急すぎて分からない、まずはそこではない)

意見の件数が多い順に
◎ > ○ > ◆ > *

「併設型・中高一貫校」ってどんな学校？

～中学からの内部生と高校からの外部生が共に高め合う学校～

【対象】
 中学入学段階のお子さま(内部生)
 高校入学段階のお子さま(外部生)



※市内にも私立学校や県立清水南高校・中等部が同様の形態で存在します

特徴

- ① 中学から入学する生徒は、入学時に入試があります(併設する高校に進学するときは、高校入試はありません)
- ② 高校からの入学する場合は、高校入試があります
- ③ 併設型なので、中学校と高校の密接な連携のもと、一貫した教育課程を編成することができます

メリット

- ① 6年間をかけて計画的に学べます(内部生)
- ② 高校から新しい生徒が入ってくるため、人間関係を広げることができます
- ③ 高校受験の負担がなく、課外活動や探究活動に集中できます(内部生)
- ④ 異年齢の交流を通じて社会性が育まれます

Q7.【任意】併設型中高一貫校に関してご意見がありましたら、簡潔に記入してください。

【回答数=916件 自由記述を大まかに分類し、主な意見を抽出 枠内:上から意見の多い順】

【肯定的な意見】

- ◎選択肢の拡大・多様性(選択肢が増える、チャンスが2回ある、多様なルート、柔軟な選択)
- ◎外部生による刺激・活性化(新しい風、中だるみ防止、切磋琢磨、人間関係の広がり、リセット)
- ◎6年間の一貫教育・カリキュラム(先取り学習、大学受験対策、継続性、じっくり学ぶ)
- 高校受験の負担軽減(内部生:受験がない、のびのび、課外活動に集中、部活ができる)
- 支援・不登校・多様な学び(環境変化が少ない、支援級、学びの多様化)
- ◆リセット・再チャレンジの機会(中学で合わなくても高校で変えられる、進路変更可能、逃げ道)
- *私立のような環境を公立で(経済的負担減、私立並みの教育、公立の選択肢)

【肯定的(条件付き)な意見】

- ◎特色ある教育・専門性(専門学科、理数科、英語、職業教育、他校との差別化)
- ◎途中転出・他校受験の自由(高校進学時に他校へ行けるか、外部受験の可否、コース変更)
- ◎通学・立地・バス(遠距離通学、スクールバス、自転車通学、立地条件)
- ◎高い進学実績・学力担保(進学校であること、レベル維持、国公立大、実績が必要)
- 経済的配慮・給食(学費、給食の有無、弁当負担、私立との差)
- 内部生と外部生の融和・公平性(壁を作らない、クラス編成の配慮、差別がないか、馴染めるか)
- ◆カリキュラム・進度の整合性(授業の遅れ、進度の違い、未履修への対応、補習体制)

【中立的な意見 ・判断不可】

- ◎詳細情報の不足・説明要望(具体的内容不明、イメージできない、判断材料不足)
- ◆既存校(私立・公立一貫校)との比較(既存の一貫校との違い)
- *制度・運営への質問(教員配置、部活動、義務教育との兼ね合い)
- *自分(子供)には無関係(年齢対象外、興味なし)
- *イメージ困難(よくわからない、想像できない)
- *入試・選抜制度への関心(倍率、定員割合、選抜方法)

【懸念されること】

- ◎内部生と外部生の溝・派閥(壁がある、グループ固定、外部生が馴染めない、カースト、疎外感)
- ◎学力格差・進度のズレ(ついていけない、学力差、進度が違う、合流時の負担)
- 人間関係の固定化(内部生)(狭い世界、メンバー固定、いじめ、逃げ場がない)
- 小学生の受験負担・早期化(塾通い、受験戦争の低年齢化、親の負担増)
- 外部入学の狭き門化・枠減少(高校からの枠が減る、入りにくくなる、定員減)
- 中だるみ・モチベーション(受験がないためだらける、競争心欠如、緊張感がない)
- ◆経済格差・教育格差(塾代、貧困家庭は無理、地域格差)
- *通学負担・遠距離(遠い、通学時間、災害時の対応、親の送迎)

【否定的な意見】

- 外部生のデメリット(途中からは入りたくない、アウェイ感、仲間外れ)
- 既存制度(3-3制)の支持(高校受験は必要、リセットの機会、今のままでいい)
- 中途半端・メリット不明(どっちつかず、一貫の良さが消える、意味がない)
- 公立高校の選択肢減少への不満(普通の高校を残して、高校受験枠を守れ)
- 失敗例への言及(定員割れ、他県の失敗例、需要がない)
- ◆早期選抜への反対(小学生に受験は不要、早すぎる)

【批判的な意見】

- ◆教員の質・指導力への不信(公立教員の限界、異動がある、質の担保)
- *現状の公立教育への不満(既存校の改善が先、内申点批判)
- *コスト・税金の無駄(税金の無駄遣い、既存校にお金を使え)
- *格差・エリート教育批判(優秀な子だけ優遇、弱者切り捨て)
- *制度設計・運営能力への疑問(見通しが甘い、ただの箱物、市に運営能力あるか)

Q8. 「単位制高校(全日制)」の設置について **必須**

検討委員会では、「将来の静岡市立の新しい学校」として、学習の自由度が高い(生徒の関心や進路に合わせやすい等)高校である「全日制課程の単位制高校」が提案されました。お子様の進路先として、候補になり得るか等の意見について、次の選択肢から1つだけ選んでください。

選択肢	回答数	割合
1 十分候補になり得る。	2,671	33%
2 基本的には今ある高校(普通科や専門学科(工業・農業・商業等))を考えているが、このような選択肢があってもよい。	4,486	55%
3 今ある高校(普通科や専門学科(工業・農業・商業))だけしか考えられない。	891	11%
4 その他	87	1%

「全日制単位制高校」ってどんな学校？

～卒業に必要な授業を自分で選び、単位をとりながら学ぶ高校～

【対象】
高校入学段階のお子さま



特徴

- ① 平日の昼間に毎日通学する「全日制」の高校です
- ② 高校に入学するときに、入試があります
- ③ 学年ではなく「単位」を修得して卒業を目指します
- ④ 必修科目以外は、自分の興味や進路に合わせて授業を選べます
- ⑤ 大学のように一人ひとりが異なる時間割になります
- ⑥ 留年はありません(修得できなかった単位は翌年度以降に挑戦できます)

メリット

- ① 自分の興味や将来の夢に直結する授業を選べます
- ② 大学進学に向けて必要な科目を重点的に学べます
- ③ 主体的に学ぶ力が身につきます

【「その他」を選択した場合の自由記述 の主たる内容】

【肯定的(条件付き肯定)な意見】

- ◎明確な目的・専門性がある場合(やりたいことがあれば、学科による、専門学校のような形なら)
- 特別支援・インクルーシブ対応(支援級も対象か、配慮があるなら、出席日数の問題解決、情緒級)
- ◆不登校・多様な学びへの期待(不登校でも通いやすい、小中不登校の子の受け皿、得意分野を伸ばす)
- ◆進学実績・詳細情報の提示(大学進学実績が出たら、具体的なイメージが湧けば、レベルによる)
- *既存校(市高等)への評価(市高を残してほしい、既存校だけで十分(現状肯定))
- *手厚いサポート体制(周りのしっかりしたサポートがあれば、相談体制、放置されないなら)

【中立的な意見 ・判断不可】

- ◎情報不足・イメージ困難(よくわからない、判断材料がない、経験がない)
- ◎私立・特別支援学校が第一志望(私立中高一貫へ行く、支援学校が候補、対象外)
- 子供の意思・適性次第(本人の意思による、内容による)
- *既存校との違い不明(通信制高校との違いが分からない、すでにある)
- *まだ考えられない(時期)(先の話すぎる、想像できない)

【懸念されること】

- ◎自己管理能力への不安(15歳の壁、自分で選ぶのは難しい、迷いそう、未熟、楽な方へ流れる)
- 学力・進路形成へのリスク(基礎学力の低下、大学受験への影響、夢がないと選べない、偏り)
- システムへの不安(サボリ・留年、サボる子が出る、単位取れず留年、卒業できるか、仕組みが不明)
- ◆社会性・規律の欠如(集団生活が学べない、わがままになる、言葉遣い、規律)
- ◆特別支援・配慮の不足(毎日通学が難しい、支援級への配慮、発達障害への対応)

【否定的な意見】

- ◎制度への不信・魅力欠如(魅力がない、子供のためと思えない、既存高校の二番煎じ)
- 特別支援・特性による不適合(支援級なので無理、普通の学校は考えられない、不登校には不向き)
- ◆時期尚早・反対(高校生には早い、単位制を増やしてほしくない、基礎重視すべき)

【批判的な意見】

- 調査設計・選択肢への不満(支援学校の選択肢がない、デメリットを開示すべき、急すぎる)
- 制度の根本的欠陥指摘(自由すぎる、子供が信用できない、義務教育外の扱い)

意見の件数が多い順に
◎ > ○ > ◆ > *

Q9. 【任意】単位制高校(全日制)に関してご意見がありましたら、簡潔に記入してください。 9

【回答数=956件 自由記述を大まかに分類し、主な意見を抽出 枠内:上から意見の多い順】

【肯定的な意見】

- ◎選択肢の拡大・多様性(選択肢が増えるのは良い、新しい学校の形、公立での選択肢、多様化)
- ◎個性・得意分野の伸長(好きなことを伸ばす、没頭できる、スペシャリスト育成、強みを活かす)
- ◎自主性・自律心の育成(自分で決める力、責任感が育つ、主体性、自己管理、大人への準備)
- ◎不登校・登校困難への対応(不登校の受け皿、毎日行かなくて良い、起立性調節障害、再チャレンジ)
- ◎早期のキャリア形成・専門性(早くからの専門分野、職業観育成、夢直結)
- 大学進学へのメリット(大学のようなシステム、先取学習、進学有利)
- 学習スタイル・ペースの自由(自分のペース、人と違っていい、朝が苦手でも通える、無理なく卒業)
- 時代への適合・先進性(今の時代に合っている、画一的教育からの脱却、新しいスタンダード)
- 発達特性・支援ニーズへの適合(発達障害、集団行動が苦手、支援級からの進学)
- ◆効率的な学習(無駄の排除、受験に必要な科目だけ、嫌いな科目を回避、時間の有効活用)

【肯定的(条件付き)な意見】

- ◎明確な目標・夢がある場合(夢がある子には良い、目的意識が必要)
- ◎高い専門性・魅力ある科目(IT・芸術等の特色、大学連携、資格取得)
- クラス・行事等の交流機会(友達作り、体育祭・文化祭、クラス活動、部活動の確保)
- 手厚い履修指導・ガイダンス(先生のアドバイス、チューター制度、選択ミスの防止、相談体制)
- 基礎学力・必修科目の担保(最低限の教養、必修科目の設定、偏りすぎない工夫、一般常識)
- 進学実績・学力レベルの維持(国公立に行けるか、レベルが低くならないか、底辺校化の回避)
- ◆経済的配慮・コスト(学費、給食、通学費、公立価格であること)
- *進路変更時の柔軟性(夢変わった時の対応、途中で変更できるか、潰しがきくか)
- *メンタル・生活面のサポート(担任の有無、見守り、カウンセリング)
- *既存校との差別化(通信制高校との違いが必要、より高度な内容、専門性の強化)

【中立的な意見・判断不可】

- ◎詳細情報の不足(具体的内容不明、イメージできない、カリキュラムが見たい)
- ◆制度・実態への質問(部活はあるか、行事はあるか、制服は)
- *対象外・無関心(自分には関係ない、興味なし)
- *既存校(通信等)との比較質問(通信制と同じでは?、通信制との違いは?)
- *情報・知識不足(よくわからない、判断材料がない)

【懸念されること】

- ◎自己管理能力の未熟さ(15歳の壁、15歳には早い、自己管理できない、計画性がない、親の負担増)
- ◎安易な選択・楽な方への流出(楽な科目ばかり選ぶ、サボる、遊んでしまう、単位目的)
- 卒業・単位取得の難易度(留年はないが卒業できない、3年で終わらない、中退の増加)
- 知識の偏り・教養不足(嫌いなことから逃げる、バランスが悪い、基礎学力の低下)
- 進路の袋小路(選択の失敗)(科目不足で受験できない、将来の幅を狭める、後悔する)
- ◆教員の負担・専門性確保(先生が対応できるか、専門教員の不足、指導の手間)
- ◆協調性・社会性の欠如(集団行動が学べない、わがままになる、社会に出て苦勞する)
- ◆学校の雰囲気・治安悪化(荒れるのではないか、ヤンキー、規律の乱れ)
- ◆人間関係の希薄化・孤立(クラスがない、友達ができない、コミュニケーション不足、孤独)
- *情報格差・親の負担(親が管理できない、情報収集力の差、家庭環境の差)

【否定的な意見】

- ◎既存校との重複(既存校がある、二重投資、必要ない)
- 時期尚早(大学からで十分)(高校は基礎をやるべき、大学入ってからでいい、早すぎる)
- ◆普通科・既存校(桜が丘等)の維持(普通科を減らさないで、今の学校を残して、桜が丘が良い)
- ◆管理教育・集団生活の必要性(強制的に学ばせるべき、嫌なこともやるべき、甘やかす)
- ◆私立・通信制で十分(民間で足りている、公立でやる必要なし)
- *失敗の予見(レベル低下)(どうせ底辺校になる、勉強しない子の吹き溜まり)

【批判的な意見】

- ◆制度設計・運営への不信(理想論すぎる、現場を知らない、見通しが甘い、市に能力なし)
- *既存教育・環境の不備指摘(小中学校の改善が先、トイレ・エアコン直せ、PTA問題)
- *デメリット隠蔽への批判(メリットしか書いていない、誘導的だ、リスクを説明せよ)
- *コスト・税金の無駄(税金の無駄遣い、箱物行政)

意見の件数が多い順に
◎ > ○ > ◆ > *

令和8年1月 21 日版

資料 4-1

静岡市立の高等学校の在り方に関する提案書（案）

～未来の静岡の創り手の育成に向けて～

本日は、本冊子で【確認】と【協議】を行います

- 【確認】 文言の整理等
- 【協議】 大幅な修正等
- 場所によっては、修正の意図をお示ししています
- p.8-9 の協議がいちばんのポイントです。別紙の協議資料(A3)にてまとめています。
- 附属資料において用語解説している表現は、黄色マーカーでお示ししています

令和8年2月

静岡市立の高等学校の在り方検討委員会

目 次

はじめに.....	1
I 提案の背景と目的.....	2
1 市立の高等学校を取り巻く環境の変化.....	2
2 市立の高等学校の現状と課題.....	3
3 設置意義の変化と本検討の目的.....	3
II 「新しい静岡市立の学校」の設置意義.....	4
1 基本理念と基本方針.....	4
2 設置形態の検討経緯.....	5
III 中高一貫校及び全日制単位制高等学校の設置に係る提案.....	8
1 6年間の一貫した教育でじっくりと育む「中高一貫校」.....	8
2 生徒の主体性を最大限に引き出す「全日制単位制高等学校」.....	9
3 新しい学校の規模.....	10
4 新しい学校における学び.....	10
IV 提案の実現に向けた意見・要望.....	12
1 迅速な方針決定と丁寧な説明.....	12
2 教職員体制の抜本的改革.....	12
3 持続可能な地域連携の仕組みの構築.....	12
4 魅力ある教育環境への積極的な投資.....	13
5 交通の利便性への配慮と進路実績の可視化.....	13
6 在校生・教職員への配慮と県教育委員会との連携.....	13
7 中長期的な視野をもった学びのデザインの検討.....	13
V 検討の概要.....	14
1 検討の体制.....	14
2 検討の経過.....	14
おわりに.....	15

はじめに

本検討委員会は、静岡市立の高等学校が、目まぐるしく変化する社会の中で今後も「選ばれ続ける学校」であり、そして何より、静岡の未来を切り拓く力強い拠点であるために、多角的な議論を重ねてまいりました。

私たちが直面しているのは、単なる生徒数の減少という課題だけではありません。それは、設立当初に求められた「教育の機会を量的に確保する」という役割が、今まさに「これからの時代にふさわしい教育の質を追求する」という新たな使命へと、真に生まれ変わるための転換点でもあります。

本提案書は、未来の静岡を創る子どもたちが、自らの可能性を信じ、卓越した強みを持って社会へ踏み出していくための「新しい学校」の姿を描いたものです。本提案が、静岡市の教育の未来を照らす確かな一歩となり、次代を担う若者たちへの希望のメッセージとなることを心から願っています。

I 提案の背景と目的

1 市立の高等学校を取り巻く環境の変化

静岡市立の高等学校の設立当初の目的は、高等学校進学希望者への対応でした。その「量的な供給責任」の時代を経て、今、大きな転換点を迎えています。特に、以下の環境変化は、静岡市立の高等学校の在り方を根本から見直す必要性を示しています。

(1) 急速な少子化の進行

静岡市の人口推計（令和6年9月発表）によると、このまま何も人口減少対策を講じなければ、静岡市内の15歳人口は今後さらに減少し、令和6年（2024年）3月末時点との比較で、令和22年（2040年）3月末には約34%減、そして令和32年（2050年）3月末には約42%減となることが推計されています。この人口動態は、高等学校の再編や縮小が避けられない現実であることを示唆しています。

(2) 私立高等学校授業料無償化の動向

私立高等学校における授業料の支援上限額が大幅に引き上げられた令和2年（2020年）を境に、県内の全日制高等学校における私立高等学校の生徒の割合が増加しています。

このことに加え、国は、令和8年度（2026年度）からの所得制限撤廃を含む授業料無償化の更なる拡大を進めており、公立高等学校から私立高等学校への生徒の流れが更に加速すると予想されます。

このことから、市立の高等学校においても、今後「選ばれ続ける学校」となるために、県立にも私立にもない独自の価値の創出が不可欠です。

(3) 国及び県の高等学校改革の動き

全国の自治体で急速な少子化に対応するため、高等学校の再編が進められています。静岡県内でも、複数の地区で再編の計画が示されており、静岡市においても、静岡県教育委員会と密に連携し、静岡市全体の高等学校教育の最適化を図っていく必要があります。

2 市立の高等学校の現状と課題

(1) 現状

現在、静岡市立の2つの高等学校は、それぞれの長い歴史と伝統の中で多くの人材を輩出し、静岡市の発展に寄与してきました。

静岡市立高等学校は、普通教育への進学希望者の急増という地域からの要望に応え、昭和14年（1939年）に静岡市立第一中学校として創立された長い歴史と伝統があります。平成23年（2011年）には、普通科に加え、科学探究科を新設し、科学教育を核とした先進的な探究活動を学校教育全体で展開しています。また、海外の学校や研究機関との交流や海外科学研修等を通じ、国際的な視野を育む学びを実践しています。

静岡市立清水桜が丘高等学校は、平成25年（2013年）に静岡市立清水商業高等学校と静岡県立庵原高等学校の統合により開校しました。普通科と商業科を併設し、学科を越えた多様な学びを提供しています。現在も全校生徒の約6割が清水区の生徒であり、清水区を中心とした地域に深く根付いています。これまでの歴史と伝統の中で地域経済の発展に寄与する多くの人材を輩出しており、地元企業との強いつながりを活かした実学的な学びを実践しています。

(2) 課題

近年は両校ともに志願倍率が1倍を下回る、もしくはそれに近い状況が続いています。特に令和7年度（2025年度）入学者選抜では、静岡市立高等学校の科学探究科が0.53倍、清水桜が丘高等学校の普通科が0.95倍となっており、入学者数の確保が厳しい状況にあります。このことは、両校の教育活動は市民が求めていることに応えているか、検討の必要があることを示唆しています。

3 設置意義の変化と本検討の目的

市立の高等学校は、設立当初の「量的供給」の役割を終え、近年続く定員割れの状況からも、その存在意義を根本的に再定義する時期を迎えています。

今後、市が高等学校を維持し続けるためには、「質的供給」を新たな存在意義として確立する必要があります。

本検討は、この質的な供給責任を果たすための「新しい学校の姿」を議論し、産業のまち静岡を次代へとつなぐ「未来の静岡の創り手」を育成するための、新しい静岡市市立の学校の在り方を提案することを目的とします。

Ⅱ 「新しい静岡市立の学校」の設置意義

1 基本理念と基本方針

協議を重ねる中で、「新しい静岡市立の学校」は、県立にも私立にもない独自の価値を持つ学校として、静岡市の教育を牽引する存在となるべきであるとの結論に至りました。質的供給の実現に向け、以下の基本理念と基本方針を提案します。

(1) 基本理念

「静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人の育成」

(2) 基本方針（4つの柱）

① 未来の静岡の創り手を育む学校

地域企業や大学等と連携した学びを通じて、生徒が静岡市の未来を自分たちの手で創るものと感じ、地域への愛着を育むことで、将来的に地域に貢献する人材を育成します。

② 生徒一人ひとりの強みを伸ばす学校

生徒が主体的に学び、自らの強みや興味関心を深く探究する時間を確保するためには、**教育課程**内外に「**余白**」を創出することが不可欠です。その「**余白**」を活用して、「主体的に自己決定できる力」「創造力や課題解決能力を持ち変化に柔軟に対応できる力」「多様な他者と合意形成し協働できる力」「自己をよく理解し、自分の強みを生かせる力」を育成します。

③ 県立にも私立にもない、独自の価値を持つ学校

国際的視野を育む学び、及び科学技術分野における質の高い学びを中核に据え、他校とは異なる独自の教育的価値を創造し、先進的で大胆な教育に挑戦します。これにより、広い視野と卓越した論理的思考力を持ち、社会における多様な課題の解決へとつなげる行動力を備えた人材の育成を実現します。

④ 県全体の活性化の中核を担う学校

県庁所在地に設置される学校として、市内のみならず静岡県全域から「ここで学びたい」という志を持った生徒が集まる中核となる学校を目指します。

2 設置形態の検討経緯

本委員会では、「新しい静岡市立の学校」を実現する際の最適な設置形態について、事務局より示された下記の5観点に基づき、7つの設置形態（類型）について検討しました。

(1) 5観点

観点1	入学時に選ばれるか	生徒や保護者から安定した人気（志願状況）が維持できるか。
観点2	在校中に強みを伸ばせるか	教育課程内外に「余白」を創出し、生徒が自らの強みを認識し伸ばすことができる学びを提供できるか。
観点3	静岡市への愛着を深められるか	市内の企業や大学等と連携し、地域への愛着を深める学びを提供できるか。
観点4	静岡市に定着する割合を増やせるか	将来的な地元就職やUターン率の向上につながるか。
観点5	実現可能性があるか	財政面・人材配置の視点から持続可能であるか。

(2) 7つの設置形態

類型1	全日制単位制高等学校（3年）	全日制課程で、卒業に必要な単位を取得して卒業を目指す学校
類型2	高等学校＋専攻科（3年＋2年）	高等学校卒業後に更に深い専門教育を2年行う課程を付設した学校
類型3	高等専門学校（5年）	実践的・創造的な技術者を養成することを目的とした、中学校卒業後に入学できる5年一貫教育の高等教育機関の学校
類型4	大学の附属高等学校（3年＋4年）	特定の大学の附属として設置され、卒業生の多くがその大学へ進学する学校
類型5	中等教育学校（6年）	高等学校からの募集がなく、中学入学後の6年間の教育課程を提供する学校
類型6	併設型の中高一貫校（3年＋3年）	高等学校からの募集があり、中学校と高等学校の連携により教育活動を行う学校
類型7	中学校＋高等専門学校（3年＋5年）	高等専門学校に中学校を付設し、8年で実践的・創造的な技術者を養成する学校

(3) 絞り込まれた方向性

5 観点に基づき検討した結果、委員会として「中高一貫校または全日制単位制高等学校」を最も有望な方向性として提案します。

方向性 1 中高一貫校（主：類型5「中等教育学校」、副：類型6「併設型の中高一貫校」）

観点1：入学時に選ばれるか

- 中高一貫教育は私立でも実績があり、中学生や保護者にとって理解しやすい設置形態である
- 時間をかけて生徒を育成できることから、進学実績とも結びつけやすく、生徒及び保護者に期待を与えることができる

観点2：在校中に強みを伸ばせるか

- 6年間の時間的余裕があるため、高校受験にとらわれず、知的好奇心や探究心をじっくりと育むことができる
- 学習の前倒しや教育活動の工夫により、主体性を育むための「余白」を生み出しやすい

観点3：静岡市への愛着を深められるか

- 6年一貫の静岡市の地域資源や課題を活用した体験学習や探究活動等を通じて、地域社会への主体的な貢献を目指す教育を展開できる

観点4：静岡市に定着する割合を増やせるか

- 市政や地域課題に向き合う時間を通じて、シティズンシップ教育の機会が増え、結果として地域への愛着が育まれ、将来の定着やUターン率の増加が期待できる

観点5：実現可能性があるか

- 設置費用や運営コストについて、高等専門学校（類型3）や高等学校＋専攻科（類型2）と比較し、財政的な課題が少ない
- 前期課程（中学校部分）については、既存の市立中学校における教育資源や組織体制を効果的に活用できる

また、中高一貫校のなかでも、中等教育学校（類型5）を主たる提案とし、併設型中高一貫校（類型6）を副案とした背景は、中等教育学校（類型5）が持つ「高校受験がなく、6年一貫の教育を提供できる」という特性が、基本理念の達成に不可欠な「余白の創出」と「系統的な人材育成」を最も実現できると評価したためです。

方向性2 全日制単位制高等学校（類型1）

観点1：入学時に選ばれるか

- 単位制による柔軟なカリキュラムが最大の魅力である
（ただし、中学生や保護者にとって単位制はなじみが薄く分かりにくいという課題があるため、その利点を丁寧に説明し、進学実績と結びつける必要がある）

観点2：在校中に強みを伸ばせるか

- 生徒が自らの興味関心に応じて主体的に時間割を組み立てられる柔軟なカリキュラムで、基本方針に掲げる「余白」を創出しやすい
- 高校段階では、単位の組み合わせによって「余白」を創出する学校の裁量が最も効果的である

観点3：静岡市への愛着を深められるか

- 生徒の興味関心に応じた多様な選択科目に加え、静岡市独自の科目（市設定科目等）を設置することで、地域特性を踏まえた専門性の高い学びを提供し、愛着を深めることが期待される

観点4：静岡市に定着する割合を増やせるか

- 地域の産業・課題と直結した専門的な学びを実践する科目を充実させることで、在学中に、自分がその解決に貢献できるという意識を持つことができる。このことにより、「地元で働きたい」「地元で貢献したい」というキャリア意識が芽生えやすくなる

観点5：実現可能性があるか

- 7つの類型のなかで、実現可能性が高い現実的な選択肢のひとつであり、設置方法や制度面での課題が少ない

（4）絞り込みの対象外とした設置形態

検討を重ねた結果、類型4「大学の附属高等学校」、及び類型7「中学校＋高等専門学校」については、設置上の課題が多く、現段階で実現性が低いと判断されました。特に類型4「大学の附属高等学校」は、大学との連携が難しく、非現実的であるとの意見が多くありました。

これに加え、類型2「高等学校＋専攻科」、及び類型3「高等専門学校」については、生徒や保護者にとってなじみが薄く分かりづらいことに加え、設置コストや制度面での課題が多く、現段階での実現可能性が低いと判断しました。特に類型3「高等専門学校」では、既存の学校の事例から、大学院進学時や就職時などにおいて、若者が県外に流出することが懸念されたため、対象外としました。

Ⅲ 中高一貫校及び全日制単位制高等学校の設置に係る提案

本委員会は、新しい学校が目指す姿として「中高一貫校」及び「全日制単位制高等学校」の2つの方向性を提案します。いずれの設置形態においても、基本理念に掲げる「静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人の育成」という目指すべき資質・能力は共通です。これを具現化すべく、各設置形態独自の強みやアプローチの違い、期待される成果について、以下の通り整理しました。

1 6年間の一貫した教育でじっくりと育む 「中高一貫校」

※主として中等教育学校、副として併設型中高一貫校

(1) 設置形態の特徴

高校受験にとらわれず、6年間の時間的余裕のなかで、生徒の知的好奇心や探究心をじっくりと育むことができます。また、**教育課程の特例**を活用した緩やかな**先取り学習**が可能です。併設型の中高一貫校（中学入学時及び高校入学時に募集有）は、静岡市内でも実績があるため保護者にも理解されやすく、一方の中等教育学校（中学入学時のみ募集有）は県内に前例はないものの、他県においては先進的な教育活動を実践しており、実現の参考となる実績が数多くあります。

(2) 期待できること（アプローチ・到達点・重点を置くプロセス等）

① 6年間の系統的な学びによる「高度な学力と論理的思考力の育成」

6年一貫の**文理融合型のカリキュラム**により、高度な学力の定着を基盤に、生徒の知的好奇心を深化させる**探究活動**まで、系統的かつ継続的な学びを実践します。これにより、幅広い分野に対する深い知見と、多様な情報を多角的に分析し、筋道立てて最適解を導き出す卓越した論理的思考力を育成します。

② 時間的余裕を活かした「社会貢献意識と自立する力の育成」

中学段階から継続的に市政や地域課題に向き合う**シティズンシップ教育**を重点に置きます。時間をかけて地域への愛着を育むことで、主体的な社会貢献への意識を高め、社会を担う高い志と自主自律の精神を段階的に育成します。

③ 早期からの国際交流による「豊かな創造性と国際性の定着」

中学段階からの継続的な国際交流を通じ、国際的な視野を日常的な感覚として身に付けます。また、多様な価値観に触れる中で、既成概念にとらわれず新たな価値を創出する「豊かな創造性」を、6年間のゆとりある学びを通じて育みます。

(3) 留意点

中高一貫教育の質を維持するため、前期課程（中学校）と後期課程（高等学校）の教員が密に連携し、6年間途切れのない質の高い指導体制を構築する必要があります。

2 生徒の主体性を最大限に引き出す「全日制単位制高等学校」

(1) 設置形態の特徴

生徒が自らの興味・関心や進路希望に応じて、主体的に時間割を組み立てられる柔軟なカリキュラムが最大の特徴です。基本方針に掲げる「余白」を創出しやすく、生徒一人ひとりの「学びたい」という意欲に対応することが可能です。

(2) 期待できること（アプローチ・到達点・重点を置くプロセス等）

①柔軟なカリキュラムによる「自己形成力と論理的思考力の育成」

生徒自身が時間割を組み立てる「自己決定」の積み重ねにより、基本方針に掲げる「余白」を自ら創出します。社会の変化に対応できる高い自己形成力と、多角的な視点から物事を捉える論理的思考力を育成します。

②多様な選択科目を通じた「国際社会で生きる力の育成」

興味関心に応じた多様な科目の選択や、多様な背景を持つ他者との協働に重点を置きます。これにより、グローバルな視点で複雑な課題を解決する実践的な力を育成します。

③実践的な学びを通じた「自律的なキャリア形成力の育成」

静岡市独自の科目（市設定科目）やインターンシップ等、地域の産業・課題と直結した専門的な学びを柔軟に選択できる環境を整えます。これにより、在学中から自身の適性や職業観を具体化させ、将来の予測困難な社会においても、自らの強みを活かして自律的にキャリアを構築し続ける力を育成します。

(3) 留意点

生徒が将来の目標に向かって最適な学習計画を立てられるよう、きめ細かな個別相談と専門的なキャリアガイダンスを組織的に提供するなど、個々の状況に応じたサポート体制を整える必要があります。

3 新しい学校の規模

現在の静岡市立の2つの高等学校（1学年あたりの学級数：合計14学級）の現状及び少子化の急速な進行を考慮し、将来的には「新しい静岡市立の学校」は、1学年あたり8学級から10学級程度を上限とすることが望ましいと考えます。

また、具体的な学級数については、静岡市の教育環境全体における最適化の視点から、静岡県教育委員会との調整を経て決定されるべきものと考えます。

4 新しい学校における学び

「新しい静岡市立の学校（中高一貫校・全日制単位制高校）」が目指す「静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人の育成」を実現するため、中核となる分野として事務局から「国際・グローバル」及び「情報・理数」が提示されました。これらの分野を核とし、生徒の可能性を最大限に引き出し、質の高い学習を保障するための具体的な教育内容及びその実現方法について、以下を提案します。

（1）「得意」を伸ばすためにこそ、「未知」への扉を閉ざさない教育プログラム

新しい学校における第一義は、生徒一人ひとりの「個別最適な学び」の充実です。生徒が専門性を深める確かな土台として、文理を問わない幅広い教養を身に付け、知的好奇心を多方面に展開できるよう、生徒の関心の外側にも広がる学びの仕組みを用意します。それと同時に、他者との協働的な学びを通じて、社会に不可欠な協調性や共創力を育成します。

（2）情報技術の活用と積極的なチャレンジの促進

産業界が求める知的好奇心や挑戦心を育み、生徒が情報技術（ICT）とデジタルツールを効果的に活用して、グローバルな視点から課題解決に取り組む力を育成します。育成にあたっては、教育課程内と課程外の活動を往還することで、生徒があらゆる場面でチャレンジできる環境を整備します。

（3）多様な個性を力に変える教育 ～多様性の包摂の視点の導入～

生徒一人ひとりの多様な個性や背景を尊重し、それを個人と社会全体に活力に変える視点を取り入れた教育活動を実践します。また、多種多様な生徒が協働的

に学ぶ環境を整備することで、個々の視野を広げるとともに、複雑な社会課題に対して独創的かつ実践的な解決策を生み出す力を育成します。

(4) 静岡市の人的リソースを活用した社会参画

地域連携をより深化させるため、連携対象を「静岡市の地域資源や課題」といった地理的リソースに限定せず、卒業生、地元企業、団体などの「静岡市の人的リソース」を幅広く活用し、実社会の知見を教育活動に取り込みます。こうした多様な他者との活動を通じ、地域への深い愛着を育みながら、卓越した行動力をもって自律的に社会へ貢献する「主体的な社会参画」を促す教育を充実します。

(5) 既存の強みと文理融合型の学びとの融合

これまで静岡市立の高等学校では、それぞれの歴史と伝統の中で独自の強みを培ってきました。静岡市立高等学校の「科学教育を核とした探究的な学び」と、静岡市立清水桜が丘高等学校で培われた「地域の企業等との連携による実学的な学び」を、文理融合型のカリキュラムの中で発展的に統合・継承することが重要です。この融合により、生徒は、「卓越した論理的思考力」と「それを地域課題の解決へとつなげる行動力」を同時に獲得し、新しい静岡市立の学校が目指す「静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人の育成」を確実なものとしします。

(6) 将来的な地域定着を見据えたキャリア形成

未来の静岡の創り手としての当事者意識を育むため、地域産業や地域課題の解決に資する実践的な活動と、地域を牽引する多様なキャリアモデルとの対話の機会を系統的に提供します。これにより、地域との結び付きに対する理解と愛着を深め、次の進学先だけでなく、その先の社会人としてのキャリアを見据える機会を提供し、地域定着への道筋を具体化するキャリア教育を実現します。

IV 提案の実現に向けた意見・要望

「新しい静岡市立の学校」の実現には、教育内容の刷新だけでなく、それを支える体制や環境の整備が不可欠です。本提案の実現に向け、委員会として、下記を要望します。

1 迅速な方針決定と丁寧な説明

市は、早急に方針を決定し、市民に説明する必要があります。本検討委員会で提案した2つの設置形態（中高一貫校・単位制高等学校）は、事務局が令和7年（2025年）12月に実施したアンケート調査の結果によると、これから中学生や高校生になる児童生徒の保護者の大半からの理解を得られていますが、生徒や保護者の不安を払拭するため、引き続き積極的な情報提供を行うことが重要です。

2 教職員体制の抜本的改革

「新しい静岡市立の学校」が独自の教育を実現するためには、現在の教職員の配置に関する県への依存体制を抜本的に見直すことが不可欠です。具体的には、市採用の校長の登用や県採用の教員の割合を減らすなどが考えられます。

また、「新しい静岡市立の学校」と市立中学校との連携を強化し、**教員交流**を促進することで、市内義務教育と高等学校教育の連携深化を図ります。これにより、教員の指導力向上や新たな視点の共有が進み、結果として市内義務教育全体の質の向上に貢献する研修効果も期待できます。

3 持続可能な地域連携の仕組みの構築

学校と地域の連携を教員個人の努力によるものとせず、市がコーディネーター機能を担い、特に産業政策を担う課と密接に連携すべきです。

連携においては、「静岡市の地域資源や課題」といった地理的リソースだけでなく、卒業生、地元企業、団体などの「人的リソース」を幅広く活用し、地域企業や大学等との連携協定を組織的に推進します。これにより、生徒が地域社会への愛着や貢献意識を高める環境が整備され、静岡市の継続的な発展に寄与する人材育成につながります。

4 魅力ある教育環境への積極的な投資

教育内容（ソフト面）だけでなく、生徒の創造性を刺激する先進的な施設・設備（ハード面）への積極的な投資が極めて重要です。ハード面は生徒を集める象徴としての一面も有するため、私学に比肩する環境整備が求められます。

また、この投資については、施設・設備に加え、静岡市単独の予算による教員への投資（加配措置など）も含めて検討すべきであり、教育への投資こそが最も重要であるという確信のもと実行されるべきです。

5 交通の利便性への配慮と進路実績の可視化

生徒の安心安全な学校生活を保障するためには、アクセス環境などの通いやすさへの十分な配慮が必要です。また、生徒や保護者は学校選びの際に進学実績やキャリア形成の成果を重視するため、それに関する情報を分かりやすい指標で明確に提示する設計が不可欠です。こうした情報の可視化は、結果として学校への高い信頼と評価の獲得につながります。

6 在校生・教職員への配慮と県教育委員会との連携

静岡市立の高等学校の在り方に関する検討にあたっては、在校生が安心して学びを継続できるよう学習環境を維持するとともに、学校現場の教職員へのきめ細かな情報提供が必要です。このことに加え、引き続き、市内の生徒数減少という大きな課題に対応するため、静岡市が独自の考えを持った上で静岡県教育委員会と緊密に連携し、静岡市全体の教育の最適化を図っていく必要があります。

7 中長期的な視野をもった学びのデザインの検討

静岡市は、概ね令和22年（2040年）までを見据えた中長期的な学びのデザインにおいて、静岡市教育大綱の趣旨を将来にわたり実現する意思を明確に示し、「新しい静岡市立の学校」の基本理念に基づくスクール・ミッションを与える構造を構築すべきです。その際、VUCA時代に求められる「国際・グローバル」及び「情報・理数」の分野を中核に据え、令和7年（2025年）9月に公表された次期学習指導要領の「論点整理」を踏まえた革新的な教育カリキュラムを実装する計画を作成することを求めます。

V 検討の概要

1 検討の体制

静岡市立の高等学校の在り方検討委員会

(敬称略、職名等は委員着任時点のもの)

役職	氏名	職名等
委員長	村山 功	静岡大学 教授
副委員長	志村 剛和	常葉大学 法人本部 指導主事
委員	佐野 文子	静岡県総合教育センター 教育主任
委員	高畑 幸	静岡県立大学 教授
委員	溝上 慎一	学校法人桐蔭学園 理事長 桐蔭横浜大学 教授

2 検討の経過

本提案書の作成にあたっては、計5回にわたり、以下のとおり検討を重ねました。

回次	開催日	主な協議内容
第1回	令和7年4月28日	在り方に係る検討の視点
第2回	令和7年6月18日	新しい学校の設置形態に関する比較検討
第3回	令和7年9月9日	中高一貫校及び全日制単位制高等学校の方向性に関する検討
第4回	令和7年11月12日	中核となる学びの検討 提案書骨子案の検討 アンケート調査の実施
第5回	令和8年1月21日	アンケート調査結果の報告 提案書(案)の最終とりまとめ

おわりに

本提案は、「新しい静岡市立の学校」が、未来を創る子どもたちにとって真に価値ある学びの場であり続けるための道筋を示したものです。

人口減少という厳しい現実を乗り越え、静岡市が未来に向けて持続的に発展していくためには、教育への投資こそが最も重要であると確信しています。

この提案が実を結び、市民の誰もが誇れる「新しい静岡市立の学校」が誕生することを心から願います。

静岡市立の高等学校の在り方に関する提案書(概要) 令和7年12月15日版

令和8年1月

～未来の静岡の創り手の育成に向けて～

静岡市立の高等学校の在り方検討委員会

I 背景と現状

・急速な少子化の進行

2040(R22): 約34%減少
2050(R32): 約42%減少 ※対R6比



- ・私立授業料無償化による公立離れの加速、全国的な再編統合
- ・市立2高校(清水桜が丘・静岡市立)ともに定員割れ等の厳しい状況

パラダイムシフト

「量的な供給責任」

「質的な供給責任」

未来を創る人材を育成する
「選ばれる学校」への転換

III 「新しい静岡市立の学校」の姿

中核となる学びの分野



国際・グローバル



情報・理数

方向性① 中高一貫校

6年間の「余白」

【6年一貫の学び】

知的好奇心をじっくり育み、確かな学力を育成する

【シティズンシップ教育】

地域と連携した学びを通じて、主体的な貢献を目指す志を育成する

【創造性と国際性の育成】

文理融合型の学習や多様な国際交流活動等を通じて、創造性かつグローバルな視野を身に付ける

方向性② 全日制単位制高校

カリキュラムの「余白」

【主体的な学びの推進】

多様な科目を主体的に選択学ぶことで、自己の可能性を追求する

【多様な価値観への理解と協働】

協動的な学びを通じ、多様な価値を理解し、国際社会で通用する協働性を育む

【多様な進路選択とキャリア形成】

大学進学や起業・地元企業への就職など、多様な進路に対応するキャリア形成力を育成する

共通基盤： 個別最適な学び×協動的な学び / 多様性 / 連携による学び

II ビジョンとコンセプト

ビジョン

静岡市に新たな価値を創出する、
卓越した強みと行動力を備えた人の育成

コンセプト

・未来の静岡の創り手:

地域を「我がごと」と捉え、地域への愛着を育む

・強みを伸ばす:

教育課程の内外に「余白」を創出し、生徒が主体的に学び、興味関心を深く追求する

・独自の価値:

県立や私立にない先進的で大胆な教育に挑戦する

・県全体の中核:

市内のみならず広域から生徒が集まるフラッグシップ校を目指す

IV 実現に向けた意見・要望

在り方に関する市の迅速な方針決定と市民への丁寧な説明

教職員の配置に関する県への依存体制の抜本的な改革

市の地理的・人的リソースの活用による持続可能な連携体制の構築

魅力ある教育環境を実現するための積極的な投資

通いやすさへの配慮とわかりやすい進路実績の指標の提示

在校生及び教職員への配慮と県教育委員会との緊密な連携

中長期的(2040年頃まで)な視野をもった学びのデザイン

静岡市立の高等学校の在り方に関する提案書(概要) 令和8年1月16日版

令和8年2月

～未来の静岡の創り手の育成に向けて～

静岡市立の高等学校の在り方検討委員会

I 背景と現状

・急速な少子化の進行

2040(R22): 約34%減少
2050(R32): 約42%減少 ※対R6比



・私立授業料無償化による公立離れの加速、全国的な再編統合

・市立2高校(清水桜が丘・静岡市立)ともに定員割れ等の厳しい状況

使命の進化

「量的な供給責任」

「質的な供給責任」

未来の静岡を創る人材を育成する
「選ばれる学校」への転換

III 「新しい静岡市立の学校」の姿

中核となる学び

～広い視野で世界をとらえ、情報技術を使いこなし論理的に課題を解決～

国際・グローバル

情報・理数

方向性① 中高一貫校

6年間の「余白」

【知的好奇心の深化(深める)】

受験のない時間を、文理の枠を超えた「探究活動」や興味ある学びの追求に充てる。

【発展的な挑戦の創出(広げる)】

先取り学習で生まれた時間で、海外研修や大学連携など高度な実践に挑戦する。

【試行錯誤による自己形成(育てる)】

6年間のゆとりの中で、失敗を恐れず自分の志や生き方をじっくり見つめ直す。

方向性② 全日制単位制高校

カリキュラムの「余白」

【主体的な学びの設計(選ぶ)】

自ら時間割を組む「自己決定」を通じ、強みを伸ばす専門学習に集中する。

【社会とつながる実践(試す)】

柔軟な時間を活用し、地域企業との連携や実社会での課題解決に踏み出す。

【自律的な進路設計(切り拓く)】

自ら管理する「余白」を使い、インターンや資格取得など独自のキャリアを設計する。

共通基盤: 個別最適な学び×協働的な学び / 多様性 / 連携による学び

II 基本理念と基本方針

基本理念

静岡市に新たな価値を創出する、
卓越した強みと行動力を備えた人の育成

基本方針

- ① 未来の静岡の創り手を育む学校
地域と連携し、静岡の未来を自ら切り拓く志を持つ人材を育てる
- ② 生徒一人ひとりの強みを伸ばす学校
「余白」を生かした探究と自己決定により、創造力と行動力を磨く
- ③ 独自の価値を持つ学校
国際・理数を軸に、文理融合型の先進的で大胆な教育に挑戦する
- ④ 県全体の中核を担う学校
志高い生徒が集まる学校として、静岡の教育を牽引する

IV 実現に向けた意見・要望

在り方に関する市の迅速な方針決定と市民への丁寧な説明

教職員の配置に関する県への依存体制の抜本的な改革

市の地理的・人的リソースの活用による持続可能な連携体制の構築

魅力ある教育環境を実現するための積極的な投資

通いやすさへの配慮とわかりやすい進路実績の指標の提示

在校生及び教職員への配慮と県教育委員会との緊密な連携

中長期的(2040年頃まで)な視野をもった学びのデザイン

【協議資料(別紙)】 Ⅲ 中高一貫校及び全日制単位制高等学校の設置に係る提案 (P.8-9)

ご意見 中高一貫校と全日制単位制高校について、目指す資質は同じでも、アプローチや重点等が異なることが伝わる表現にしてほしい。
 ⇒ 対応方針: 共通性の強調と設置形態による違いの明確化

【共通性の強調】 Ⅲの冒頭(P.8)で、どちらの設置形態も「目指す資質・能力」は同じ+設置形態によりアプローチ等が異なる を記載

Before	After (案)
1. 記載なし	本委員会は、新しい学校が目指す姿として「中高一貫校」および「全日制単位制高等学校」の2つの方向性を提案します。いずれの設置形態においても、基本理念に掲げる「静岡市に新たな価値を創出する、卓越した強みと行動力を備えた人の育成」という目指すべき資質・能力は共通です。これを具現化すべく、各設置形態独自の強みやアプローチの違い、期待される成果について、以下の通り整理しました。

【設置形態による違いの明確化】 それぞれの(2)期待できること において、アプローチ・到達点・重点を置くプロセスについて説明

中高一貫校について:(2)期待できること の①~③の修正 (P.8)

Before	After (案)
<p>【意図】 どのように教えるか(先取りや特例)という手段についての説明 ⇒ 生徒がどのように高みに到達できるかという教育の価値と結果の説明</p>	
<p>①確かな学力の定着と深化</p> <p>6年間を見通した系統的なカリキュラム編成により、確実な学力を土台に、習熟度別授業や独自の探究活動を通じて高い学力と論理的思考力を早期に育成します。千代田区立九段中等教育学校の事例のように、教育課程の特例を活用した緩やかな先取り学習や、探究を軸とする教育の実践が可能です。</p>	<p>①6年間の系統的な学びによる「高度な学力と論理的思考力の育成」</p> <p>6年一貫の文理融合型のカリキュラムにより、高度な学力の定着を基盤に、生徒の知的好奇心を深化させる探究活動まで、系統的かつ継続的な学びを実践します。これにより、幅広い分野に対する深い知見と、多様な情報を多角的に分析し、筋道立てて最適解を導き出す卓越した論理的思考力を育成します。</p>
<p>②地域と連携した「社会貢献意識と自立する力の育成」</p> <p>系統的なシティズンシップ教育と、市政や地域課題に向き合う継続的な学習により、主体的な社会貢献への意識を高め、社会を担う高い志と自主自律の精神を段階的に育成します。</p>	<p>②時間的余裕を活かした「社会貢献意識と自立する力の育成」</p> <p>中学段階から継続的に市政や地域課題に向き合うシティズンシップ教育を重点に置きます。時間をかけて地域への愛着を育むことで、主体的な社会貢献への意識を高め、社会を担う高い志と自主自律の精神を段階的に育成します。</p>
<p>③未来社会を切り拓く「創造性と国際性の涵養」</p> <p>ICT教育や文理融合型の学習、多様な国際交流プログラムを通じて、国際的な視野を身に付けます。例えば、在学中に複数回の海外研修を実施することで、語学力の向上に留まらず、異文化理解の深化、主体性や課題解決能力の育成等が期待できます。</p>	<p>③早期からの国際交流による「豊かな創造性と国際性の定着」</p> <p>中学段階からの継続的な国際交流を通じ、国際的な視野を日常的な感覚として身に付けます。また、多様な価値観に触れる中で、既成概念にとらわれず新たな価値を創出する「豊かな創造性」を、6年間のゆとりある学びを通じて育みます。</p>
<p>【意図】 国際交流等を「当たり前の感覚」へと昇華させ、それによって育まれた自由な発想(創造性)を、静岡市の未来を創る力へとつなげていく道筋を表現</p>	

全日制単位制高等学校について：(2)期待できること の①～③の修正 (P.9)

Before	After (案)
<p>【意図】「制度の説明」⇒「生徒の主体的な変容」 決められた枠組みをなぞるのではなく、自らの手で学びの形を編み上げていくことこそが、変化の激しい社会を生き抜く「自己形成」につながることを表現。自己形成力と論理的思考力を整理。</p>	
<p>①主体的・探究的な学びによる「自己形成力の育成」</p> <p>興味や進路に応じた多様な科目選択と学習計画の策定を通じて主体的な学習態度を醸成するとともに、探究活動や課題解決学習により、社会の変化に対応できる論理的思考力と自己形成力を育成します。</p>	<p>①柔軟なカリキュラムによる「自己形成力と論理的思考力の育成」</p> <p>生徒自身が時間割を組み立てる「自己決定」の積み重ねにより、基本方針に掲げる「余白」を自ら創出します。社会の変化に対応できる高い自己形成力と、多角的な視点から物事を捉える論理的思考力を育成します。</p>
<p>【意図】 国際交流を特別なイベントとして切り離すのではなく、単位制の最大の特徴である「自由な科目選択」と多様な他者との交わりの中に国際教育を溶け込ませた表現</p>	
<p>②多様な価値観を理解し協働する「国際社会で生きる力の育成」</p> <p>国際理解や異文化交流科目の充実、及び多様な背景を持つ他者との協働を通じて相互理解を深めるとともに、留学や地域連携による課題解決学習を通して、グローバルな視点で解決する力を育成します。</p>	<p>②多様な選択科目を通じた「国際社会で生きる力の育成」</p> <p>興味関心に応じた多様な科目の選択や、多様な背景を持つ他者との協働に重点を置きます。これにより、グローバルな視点で複雑な課題を解決する実践的な力を育成します。</p>
<p>【意図】 静岡市というフィールドを最大限に生かした専門的な学びを通じて、生徒が自らの得意を自覚し、自信をもって社会へ飛び出していける仕組みを表現</p>	
<p>③進路を見据えた継続的な「キャリア形成力の育成」</p> <p>多様な選択科目の履修やインターンシップ等を通じて、自身の適性や職業観を具体化し、将来の進路を選択した後も、社会や環境の変化に適応しながら自律的にキャリアを構築し続ける力を育成します。</p>	<p>③実践的な学びを通じた「自律的なキャリア形成力の育成」</p> <p>静岡市独自の科目(市設定科目)やインターンシップ等、地域の産業・課題と直結した専門的な学びを柔軟に選択できる環境を整えます。これにより、在学中から自身の適性や職業観を具体化させ、将来の予測困難な社会においても、自らの強みを活かして自律的にキャリアを構築し続ける力を育成します。</p>